

はじめに

本学は今年で創立 50 周年を迎えました。コロナ禍ということもあり、人を集めてのイベントは行いませんが、周年事業として『これまでの 10 年、これからの 10 年』と題したウェブサイトを準備中であり、本評価書作成においても、そうした歴史の中の 1 年を綴ることの意味が強く意識されました。

さて、令和 2 年度の自己点検評価に当たっては、3 つの点に留意しました。ひとつは介護福祉学科が完成年度を迎え、初めての卒業生を送り出したことです。人数は多くありませんが、留学生を含む 1 期生全員が介護専門職者として地域社会に巣立って行ったのは、素晴らしい成果でした。評価書にはこの 2 年間の教育内容をなるべく丁寧に記すよう心がけました。

二つ目はコロナ禍に関連することです。本学は約 1 か月の休校期間を除けば対面授業を継続し、学外実習も実施できましたが、教育環境は変化を免れず、さまざまな行事が中止もしくは規模縮小となっただけでなく、教員の研究・社会貢献活動や学生のフィールドワーク、ボランティアにも大きな影響が及びました。特に影響の大きかった地域貢献は本学の教育活動の柱のひとつであり、基準 A のテーマともなっています。評価書には本学が継続してきた活動とコロナ禍への対応およびその中で得られた成果を記し、次年度に繋げる内容としました。

最後は、文部科学省の指針に沿って実施したいくつかの新しい取り組みであり、そのひとつが数年来の課題であった学修成果の可視化のための調査です。各学科でディプロマポリシーに基づいたルーブリック評価表を作成し、学期ごとに学生の成長実感を調査して、2 年間の変化を追跡することを目指しています。また、本学に関係の深い団体の方々から本学の教育研究活動への意見を聴取する懇談会や、ディプロマ・サプリメントの交付も実施しました。詳細を記すことはできませんでしたが、本学の実態とニーズに沿った形で実現することで、型どおりでない成果が得られたと思っています。

執筆に当たられた教職員の方々、また長期間の煩雑な編集作業に携わり、的確なコメントを返してくださった自己点検評価委員の方々に、厚く御礼申し上げます。

これからの 10 年に向かって、いっそう心を合わせて進んで参りたいと思います。

令和 3 年 7 月

八戸学院大学短期大学部学長 杉山幸子